



ガイドラインと制約事項

- [ガイドライン \(1 ページ\)](#)
- [制限事項 \(2 ページ\)](#)

ガイドライン

HyperFlex ストレッチ クラスタを作成する時に以下のガイドラインを考慮してください。

- HyperFlex ストレッチ クラスタ機能を使用するには、HXDP Enterprise Edition のライセンスが必要です。
- VM ロードバランシングやVM 移行などのフル機能の HyperFlex ストレッチ クラスタ機能には、vSphere Enterprise Plus ライセンスが必要です。
- DRS が [Enabled] であることを確認します。
- サポートされているストレッチ クラスタ スケール：
 - 各サイトに最低2つのノードが必要です。両方のサイトにわたる最小の全体的なクラスタサイズは4です。
 - 小型フォームファクタ (SFF)。両方のサイトにわたるクラスタの最大サイズは64です。コンバージドノードの最大数は、サイトあたり16です。1サイトあたりのノードの最大制限は32を超えてはなりません。コンバージドノードに対するコンピューティングの比率は2:1にすることができます。たとえば、サイトごとに、11のコンバージドと21のコンピューティングノードを設定できます。
 - 大型フォームファクタ (LFF)。最大クラスタサイズは48です。コンバージドノードの最大数は、サイトごとの8です。1サイトあたりのノードの最大制限は24を超えてはなりません。コンバージドノードに対するコンピューティングの比率は2:1にすることができます。たとえば、サイトごと8のコンバージドおよび16のコンピューティングノードを設定できます。
- 各サイトに冗長ファブリック インターコネクト設定が必要です。

- 両方のサイト間で対称クラスタ設定が必要です。ノードの数と HX ノードのモデルは、両方のサイトで同じである必要があります。
- VM が作成される前に VMware HA と DRS が有効になっている場合のみ、VM はサイトアフィニティ内に正しく配置されます。それ以外の場合、適切なアフィニティのための VM の正しい配置は保証されません。
- HyperFlex ネイティブレプリケーションは、ストレッチクラスタ間、およびストレッチクラスタと標準クラスタ間でサポートされています。
- それぞれの関係を持つ、サイトごとに2つのデータストアをもつことがベストプラクティスです。

制約事項

HyperFlex ストレッチ クラスタを作成するには、以下の制約事項を考慮してください。

- 自己暗号化ドライブ (SED) はサポートされていません。ただし、VM ベースのサードパーティ製ソフトウェア暗号化がサポートされています。
- オーバーレイ ネットワークおよび L3 プロトコルはサポートされていません。L2 隣接関係は、データと管理ネットワークに必要です。
- ストレッチ クラスタ Hyper-V プラットフォーム ではサポートされていません
- オンライン ローリング アップグレードは HX データ プラットフォームでのみサポートされています。Cisco UCS Manager および VMware ESXi のアップグレードは、一度にノードごとに手動で行うか、オフライン状態のときに実行する必要があります。
- スタンドアロン クラスタからストレッチ クラスタ設定へのアップグレードはサポートされていません。
- 共有ウィットネス VM は、ストレッチ クラスタ展開ではサポートされていません。